

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400160		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	半田ケアセンターそよ風 グループホームB		
所在地	愛知県半田市星崎町二丁目39番地の2		
自己評価作成日	平成26年01月17日	評価結果市町村受理日	平成26年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;Jig_yosyoCd=2392400160-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;Jig_yosyoCd=2392400160-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル2階		
訪問調査日	平成26年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様が楽しみのある生活を過ごして頂けるように、散歩、外出、レクリエーション等によって積極的に取り組んでいます。またご入居者様の現存能力を活かして介護に取り組んでいます。料理や洗濯のお手伝いをしていただく。健康維持のために体操や口腔ケア、医療との連携を実施しています。他者とのふれあいでデイサービスのレクリエーションに参加させていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は半田市雁宿公園に隣接した閑静な住宅街の中にある。1階にデイサービスと居宅介護支援事業所が併設され、2階に2ユニットのグループホームがある。事務所を中心に左右対称にユニットが並び、南向きの幅広のベランダは共用となっている。リビングからは家庭用の手動式鍵の開閉でベランダに出ることができ、日々の外気浴等が出来る。気候の良い時には合同のイベント等にも使用されている。重度化が進む中で、外出支援に苦慮しているが、リクレーションや書道など余暇活動への参加、ふれあい支援などを、併設のデイサービス利用者と共に参加して、入居者の健康維持や楽しみのある生活支援につなげている。入居者は明るくゆったりしたりリビングで、旗揚げゲームに興じたり、思い思いの場所で好きな歌を歌ったり、テレビを見ながらゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念は玄関等、目に触れ易い所に掲示しており、内容を確認・理解し、全体会議で唱和し取り組んでいる。また各ユニットの目標を掲げ取り組んでいる。	法人の理念を目に付きやすいホームの玄関フローアールや会議室等に掲示している。毎月行われる全体会議で理念を唱和し、内容の理解と共有に努めている。各ユニット毎に目標を掲げて掲示し、ケアに繋げるように努めている。	法人の理念をふまえた事業所独自の理念を職員皆で話し合っ作り、管理者と職員はその理念を共有しあって、具体的なケアにつなげることを期待する。各ユニットの目標は職員全員が周知し実践していくことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭り等のイベントで地域の方に声を掛けさせて頂き、交流を図っている。散歩や市に出かけた時等、近隣の方と声を掛け合うことが出来る。また、地域ボランティアさんによる演奏会等にも参加している。	町内会には加入していないが、日常的に散歩や朝市に出かけ挨拶や会話を交わすなどして、近隣に住む人たちとふれあう機会を大切にしている。運営推進会議で地域の民生委員から情報ももらい、地域行事に参加している。事業所の夏まつりには近隣の人も大勢参加し賑わいをみせ、地域交流が深められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームヘルパー2級養成講座の学生の受け入れを行い地域の学生さんに認知症の方の理解を深めて頂ける様活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、ご家族様、ご利用者様、職員、行政職員、民生委員の方を交え、話し合いを行ない、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は入居者や家族、民生委員、行政職員の参加を得て開催している。事業所の状況報告や意見・要望・アドバイスなど活発な話し合いがされている。民生委員からは地域の情報が得られ、行事計画に役立っている。提案や意見、アドバイス等は記録され話し合いをし、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	センター長、管理者が行っており、市の担当者の方と頻りに意見交換し、向上を図っている。	運営推進会議の他、介護保険更新手続きや相談等で頻りに担当窓口を訪れ、助言を受けたり情報交換をして協力関係を築いている。市主催の事業者連絡協議会への参加や研修会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	チームを作り、防止に努めている。	デイサービス事業所と合同で、身体拘束拘束防止チームを作り、全体会議で具体的な事例を挙げて話し合い改善に努めている。スピーチロックについても接遇マナー強化研修で取り上げ改善に向けた取り組みを行なっている。安全を確保するため、各ユニットの入口は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	チームを作り、研修や全体会議にて報告し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいるため資料の掲示や研修会を通じて勉強し相談等実践で活用できるような環境を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行なっているが、出来る限りご利用者様、ご家族様の不安等にお答え出来る様努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会にお見えになられた時等、気軽にお話して頂ける様な雰囲気作りにも努め、要望等を聴かせて頂き、反映されるよう取り組んでいる。	入居者からは日常の会話やケアの中で把握に努めている。家族からは面会や運営推進会議、その後の食事会、行事の後などに感想を聞いて運営に反映させている。運営推進会議録やそよ風新聞で家族に情報を提供している。玄関前に「要望、相談ノート」が設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やグループホーム会議を通し、現場の意見や提案を聴き、反映している。また、面談の機会を設け意見交換している。	月1回行われる全体会議やグループホーム会議、各ユニットのミーティング等で要望や提案を聞き、話し合いをして運営に反映させている。年2回の人事考課や面談もあり、要望や意見、悩みなどを聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員一人一人の実際の力量を把握するのは難しいが、現場からの声を聴き、環境を良くしようと努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修等に参加する機会があり積極的に参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等にて、他施設の方との交流もあるが、あまり多くの機会はとれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に安心して頂けるよう、よく話を聴き、過ごしやすい環境を作るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会にお見えになられた時等、要望、お話を聴かせて頂き、少しでも満足して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを行なう上で必要な支援を共に考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただ介護を行なうのではなく、ご利用者様と共に時間の共有、役割分担をし暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関りを大切に、共に過ごす時間が持てるよう努めている。また、生活が楽しく過ごせるようにご家族様と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居という形になるので、馴染みの場所へ行く機会は減ってしまうが、ご友人や、馴染みの方が面会に来られた際には、いつでもお越し頂けるよう声掛けを行なっている。また、朝市へ出掛け、馴染みの方とお会いしている。	入居者のこれまでの生活歴から得た情報をケアに活かしている。馴染みの美容院や市場に出かけ馴染みの人と会ったり、散歩がてらに出かけるパン屋でのコーヒータムが馴染みとなっている。これまでの馴染みの場所や人との関係が途切れないような支援を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性等も考えながら、孤立しないよう良い関係が築けるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係は大切にしている。必要に応じて連絡・相談等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り希望や思いを把握できるようにしている。コミュニケーションが上手く取れない方には本人本意に考えている。	日々のかかわりの中での会話や表情などから汲み取るようにしている。意思疎通が困難な時は家族から情報を得るようにし、一人ひとりの思いに添えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より、ご家族様等に生活歴を聴き、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方、心身の状態等、情報の共有により全員で把握し申し送り情報と状況を観ながら対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会等でご家族様へのモニタリング、現場スタッフへのモニタリングを実施し、ご本人様の現状に合った計画を作成できるように関係者で話し合い作成している。	面会時等に家族と話し合い、月1回のスタッフ会議でモニタリングをしている。入居者や家族、主治医の意見も参考にしながら職員間で意見交換をし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を毎日記入し気づいた点等は、職員間で情報を共有している。また、重要な情報は赤字等で見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能なご利用者様には、デイフロア等での行事や、イベントに参加して頂いている。また、一人一人のニーズに合わせ、柔軟な支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベント等で、ボランティアの参加を呼びかけ、協力しながら盛り上げている。また、市やスーパーに出掛ける等し、楽しんで日々を過ごして頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に、定期的な往診をお願いし、何かあった場合はその都度相談に乗って頂いている。また、希望に応じ訪問リハビリを行なっている。	入居時に入居前のかかりつけ医か、提携医を希望するかを確認している。かかりつけ医による定期的な往診があり、変化があった場合はその都度相談をしている。内科、歯科の協力医による医療体制も整えられている。希望に応じ訪問リハビリを行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に気づいた点等あれば、随時相談し、必要に応じ医師に連絡、受診介助を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等、ご利用者様の状況を伺いに行ったり、ご家族様や医療関係者との相談を行なったりしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	相談等あれば随時対応している。また、こちらからもご家族様に連絡させて頂き、状況等お伝えして、ご家族様の気持ちを確かめさせて頂いている。	重度化や終末期に向けた方針については入居時に「命の事前確認書」を取り交わし、事業所としての方針を家族に説明している。入居者の状態に合わせてその都度、具体的支援等を話し合っている。看取りの経験を踏まえ、職員へのメンタルケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの掲示や、救命講習の受講を行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行なっている。	消防署の指導の下に年2回の避難訓練を行なっている。夜間と昼間を想定し、地震と火災の訓練を行ない、課題や指摘のあった事項は話し合い改善に努めている。運営推進会議でも真剣に討議が行なわれ、地域への協力要請が課題となっている。水、食料等は整備されているが、非常持ち出し物品の整備は不十分である。	地域の協力が得られるような関係作りの取り組みや季節等も考慮した非常持ち出し物品の整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等はイニシャルにて対応。一人一人に合った声掛けを心掛け、丁寧な言葉かけに十分な配慮をしている。	一人ひとりを尊重するために、呼称は「さん」付けにしている。。また、記録やケアをする時の職員同士の声かけはイニシャルで対応するなど、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮しているが、時として配慮に欠ける言葉かけやケアが見受けられる。	日々のケアの中で見落とされがちな言葉や支援の方法などを、互いにモデリングを行わない、気づき合い、見直しをしていく機会を持ち、相互に資質を高め合うことを望みたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい言葉で表現し自己決定できるよう促している。難聴の方は筆談やジェスチャー等を行いコミュニケーションをとり確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に沿えないこともあるが、出来る限り個人の希望を取り入れ、希望に添って支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	徐々に出来なくなって来ている方は環境等を見て選んでいる。整容は美容師が来所して行っている方も入れれば、馴染みの美容院へ行く方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や、片付けの中で、参加して頂ける方には参加して頂いている。また、楽しんで頂ける様に行事食等も随時考えている。	食事は栄養士の立てた献立を基本に、入居者の好みや食事量を考慮し、旬の食材や季節を取り入れながら、ユニットごとに職員が作っている。入居者は、職員と一緒に野菜を買いに行ったり、台拭きなど食事準備や後片づけ等を行なっている。職員は見守りと雰囲気作りに努めながら入居者と共に食事をしている。行事食やおやつ作りを随時取り入れ、食事が楽しみになるような支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健診により栄養チェックしている。個人にあった食事形態にて提供したり、水分はチェック表を使用し管理している。。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施して頂ける様促している。出来ない方は介助させて頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己にて行なえる方は、自己にて行なって頂いている。また、そうでない方は時間で声掛け、誘導している。	自立の方以外は、排泄チェック表で排泄パターンを把握し声かけをしたり、素振り等から察知しトイレでの排泄を促している。水分チェックや野菜を多く取り入れた食品、ヨーグルト製品、運動レクリエーションを取り入れるなどで、排泄への自立支援に向けたケアを行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックして便秘薬の服用や食事に繊維の多く含まれている食材や、乳製品等を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能で、声掛にてご本人様の希望を確認して入浴を行なっている。また、季節等に応じて、柚子湯や、菖蒲湯等を行なっている。	午後の時間帯であるが毎日入浴支援をしている。声かけをして入居者の希望に応じるなどしている。個浴槽が二つ並ぶ浴室は床暖房になっている。季節に応じて柚子湯や菖蒲湯など楽しみを取り入れている。入浴拒否のある入居者にも声かけの工夫やタイミングを見計らうなど個々に沿った入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様一人一人に応じて、入眠時間や休息時間を考え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については全てを把握しきれてはいないが、薬剤師の居宅訪問の下理解に努めている。薬の有無については把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月イベントを実施している。外食や買い物など個別対応も実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良く、ご本人様の体調の良い日等に外出している。	天候の良い日に、本人の体調や気分に合わせて、散歩や買い物に出かけている。近所のパン屋のコーヒータムも楽しみの一つとなっている。近所の神社への初詣や四季折々の花見、月1回の食事会など計画を立て支援をしている。家族の協力も得ながら、また車いすの方への支援にも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の管理が難しいので、ご本人様が利用したいときはお金を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、希望があれば支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温等、ご利用者様に合わせ、調節している。また、ご利用者様の作品を飾ったり、季節感を出す為、飾り付け等を行なっている。	左右に2つのユニットが配置され、幅広いベランダを共用している。明るく広がりリビングや廊下には加湿器や空気清浄器が設置され快適な環境作りがされている。入居者はソファコーナーや食卓を兼ねたテーブルを囲み思い思いに職員と話をしたり、季節の作品作りをしながら穏やかな時間を過ごしている。居間の壁には入居者のイベント時の写真や作品が掲示され思い出を共有する工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いご利用者様同士が思い思いに過ごせるよう席を近くする等している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や、好みの物等を置いたりしている。居室の入り口に顔写真を貼らせて頂くなど工夫している。	畳みの部屋とベットの部屋があり、本人の希望や身体状況に合わせた部屋の利用となっている。自宅で使用していた馴染みの小物や写真などを飾って、安心できる居心地の良い居室空間を工夫している。ご仏壇を置き、日々供養されている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に合った生活が送って頂ける様状態を把握し、支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392400160		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	半田ケアセンターそよ風 グループホームA		
所在地	愛知県半田市星崎町二丁目39番地の2		
自己評価作成日	平成26年01月17日	評価結果市町村受理日	平成26年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2392400160-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2392400160-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル2階		
訪問調査日	平成26年2月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご入居者様が楽しみのある生活を過ごして頂けるように、レクリエーション等によって積極的に取り組んでいます。  
またご入居者様の現存能力を活かして介護に取り組んでいます。健康維持のために体操や口腔ケア、医療との連携を実施しています。他者とのふれあいでデイサービスのレクリエーションに参加させていただき、余暇活動の一貫として取り入れています。重度の方が多くゆったりと家族と楽しく過ごせるように行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は半田市雁宿公園に隣接した閑静な住宅街の中にある。1階にデイサービスと居宅介護支援事業所が併設され、2階に2ユニットのグループホームがある。事務所を中心に左右対称にユニットが並び、南向きの幅広のベランダは共用となっている。リビングからは家庭用の手動式鍵の開閉でベランダに出ることができ、日々の外気浴等が出来る。気候の良い時には合同のイベント等にも使用されている。重度化が進む中で、外出支援に苦慮しているが、リクレーションや書道など余暇活動への参加、ふれあい支援などを、併設のデイサービス利用者と共に参加して、入居者の健康維持や楽しみのある生活支援につなげている。入居者は明るくゆったりとしたリビングで、旗揚げゲームに興じたり、思い思いの場所で好きな歌を歌ったり、テレビを見ながらゆったりと過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念は玄関等、目に触れ易い所に掲示しており、内容を確認・理解し、全体会議で唱和し取り組んでいる。また各ユニットの目標を掲げ取り組んでいる。		
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り等のイベントで地域の方に声を掛けさせて頂き、交流を図っている。散歩や市に出掛けた時等、近隣の方と声を掛け合うことが出来る。また、地域ボランティアさんによる演奏会等にも参加している。		
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームヘルパー2級養成講座の学生の受け入れを行い地域の学生さんに認知症の方の理解を深めて頂ける様活動している。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、ご家族様、ご利用者様、職員、行政職員、民生委員の方を交え、話し合いを行ない、サービスの向上に努めている。		
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	センター長、管理者が行っており、市の担当者の方と頻りに意見交換し、向上を図っている。		
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	チームを作り、防止に努めている。		
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チームを作り、研修や全体会議にて報告し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>対象者がいるため資料の掲示や研修会を通じて勉強し相談等実践で活用できるよう環境を整えている。</p>
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が行なっているが、出来る限り、ご利用者様、ご家族様の不安等にお答え出来る様努力している。</p>
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や面会にお見えになられた時等、気軽にお話して頂ける様な雰囲気作り努め、要望等を聴かせて頂き、反映されるよう取り組んでいる。</p>
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議やグループホーム会議を通し、現場の意見や提案を聴き、反映している。また、面談の機会を設け意見交換している。</p>
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者が職員一人一人の実際の力量を把握するのは難しいが、現場からの声を聴き、環境を良くしようと努めている。</p>
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社内外の研修等に参加する機会があり積極的に参加するよう促している。</p>
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部の研修等にて、他施設の方との交流もあるが、あまり多くの機会はとれていない。</p>

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に安心して頂けるよう、よく話を聴き、過ごしやすい環境を作るよう努力している。	
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会にお見えになられた時等、要望、お話を聴かせて頂き、少しでも満足して頂けるように努めている。	
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを行なう上で必要な支援を共に考え、対応している。	
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただ介護を行なうのではなく、ご利用者様と共に時間の共有、役割分担をし暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関りを大切にし、共に過ごす時間が持てるよう努めている。また、生活が楽しく過ごせるようにご家族様と共に支援している。	
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	重度方が多くなり、天気の状態を考えて小人数で行けるときの支援する。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性等も考えながら、孤立しないよう良い関係が築けるよう支援に努めている。また相性的な面があり、喧嘩にならないように努めている。	

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容		
			項目	
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係は大切にしている。必要に応じて連絡・相談等行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23 (9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り希望や思いを把握できるようにしている。コミュニケーションが上手く取れない方には本人本意に考えている。また食事で好きな食べ物を取り入れている。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より、ご家族様等に生活歴を聴き、把握できるよう努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方、心身の状態等、情報の共有により全員で把握し申し送り情報と状況を観ながら対応している。		
26 (10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会等でご家族様へのモニタリング、現場スタッフへのモニタリングを実施し、ご本人様の現状に合った計画を作成できるように関係者で話し合い作成している。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を毎日記入し気づいた点等は、職員間で情報を共有している。また、重要な情報は赤字等で見直しに生かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能なご利用者様には、デイフロア等での行事や、イベントに参加して頂いている。また、一人一人のニーズに合わせ、柔軟な支援を心掛けている。		

自己評価 実践状況	外部評価	項目		
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベント等で、ボランティアの参加を呼びかけ、協力しながら盛り上げている。また、市やスーパーに出掛ける等し、楽しんで日々を過ごして頂いている。	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に、定期的な往診をお願いし、何かあった場合はその都度相談に乗って頂いている。また、希望に応じ訪問リハビリを行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に気づいた点等あれば、随時相談し、必要に応じ医師に連絡、受診介助を行なっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等、ご利用者様の状況を伺いに行ったり、ご家族様や医療関係者との相談を行なったりしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	相談等あれば随時対応している。また、こちらからもご家族様に連絡させて頂き、状況等お伝えして、ご家族様の気持ちを確認させて頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの掲示や、救命講習の受講を行なっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行なっている。	

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価	
		項目	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36 (14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等はイニシャルにて対応。一人一人に合った声掛けを心掛け、丁寧な言葉かけに十分な配慮をしている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい言葉で表現し自己決定できるよう促している。	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に沿えないこともあるが、出来る限り個人の希望を取り入れ、希望に添って支援に努めている。状況的に厳しい感じである。	
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等、ご自分で選ぶ事の出来る方には選んだりして頂いている。整容は美容師が来所して行っている。	
40 (15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や、片付けの中で、参加して頂ける方には参加して頂いている。また、楽しんで頂ける様に行事食等も随時考えている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食事形態にて提供したり、水分はチェック表を使用し管理している。。	
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施して頂ける様促している。出来ない方は介助させて頂く。	

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
43 (16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己にて行なえる方は、自己にて行なって頂いている。また、そうでない方は時間で声掛け、誘導している。	
44 ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックして便秘薬の服用や食事に繊維の多く含まれている食材や、乳製品等を取り入れている。	
45 (17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能で、声掛にてご本人様の希望を確認して入浴を行なっているが、身体状況に合わせて曜日を固定している方もいる。また、季節等に応じて、柚子湯や、菖蒲湯等を行なっている。	
46 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様一人一人に応じて、入眠時間や休息時間を考え支援している。	
47 ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については全てを把握しきれではないが、薬剤師の居宅訪問の下理解に努めている。薬の有無については連絡して把握している。	
48 ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月イベントを実施している。外食や買い物など個別対応も実施している。	
49 (18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度の方が見えるが、天候が良くご本人様の体調の良い日等に外出している。集団外出が難しい状況である。ご家族様と協力をお願いしていく。	

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
			項目
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の管理が出来る方が居ない。	
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、希望があれば支援している。	
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温等、ご利用者様に合わせ、調節している。また、ご利用者様の作品を飾ったり、季節感を出す為、飾り付け等を行っている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いご利用者様同士が思い思いに過ごせるよう席を近くする等している。	
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や、好みの物等を置いたりしている。居室の入り口に顔写真を貼らせて頂くなど工夫している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に合った生活が送って頂ける様状態を把握し、支援している。	